

第1回 大河ドラマ「風林火山」をめぐって
平成18年9月19日(火) 17:00~19:00

講師 佐倉一徳さん NHK長野放送局企画総務部副部長
樋口 博さん 長野市産業振興部観光課課長

平成19年1月からNHKの大河ドラマとしてスタートする「風林火山」をめぐって、マスコミと連携した街づくりの可能性を探りました。

第2回 もっと楽しくて、元気な街づくりを
平成18年10月23日(月) 17:00~19:00

講師 久米えみさん ながのクラッセ会長
樋口敦子さん ながのまちづくりカフェメンバー

「街に出よう自分たちができることから始めよう」と、地域に根ざした街づくりを展開する「ながのクラッセ」の活動を紹介します。

第3回 スポーツによる街づくりを
平成18年11月21日(火) 17:00~19:00

講師 鷺沢幸一さん アスレながの事務局長
室賀 豊さん 長野市アイスホッケー協会理事

サッカーとアイスホッケーで長野を生き生きさせたい... お二人の熱い思いがあふれる講演となりました。

第4回 写真で見る長野の街並み
平成19年1月23日(火) 17:00~19:00

講師 清水隆史さん フォトグラファーほか
常磐昭二さん CMディレクター

普段着の目線で長野の街を撮り続けているフォトグラファーの清水隆史さんとCMディレクターの常磐昭二さんに、若い感性でとらえた街づくりのヒントをお聞きました。

わいがやサロン スペシャル

【テーマ】 スポーツによるコミュニティ再生

平成19年2月22日(木) 午後2:00~3:30 ホテル国際21 (3F千歳の間)

【講師】 二宮 清純氏 (スポーツジャーナリスト)

気鋭のスポーツジャーナリスト・二宮清純氏をお招きして、スポーツによる街づくりの可能性を探りました。

第5回 健康と美容を保つために

平成19年3月22日(木) 17:00~18:30

講師 虎羽里(トラバリ)ゼーラさん (アーユルヴェーダ・健康セラピスト)

アーユルヴェーダは、三千年も昔から伝えられるインドの伝承医学です。「ヘッドマッサージ」のデモンストラーションを交えながらの楽しい講演となりました。

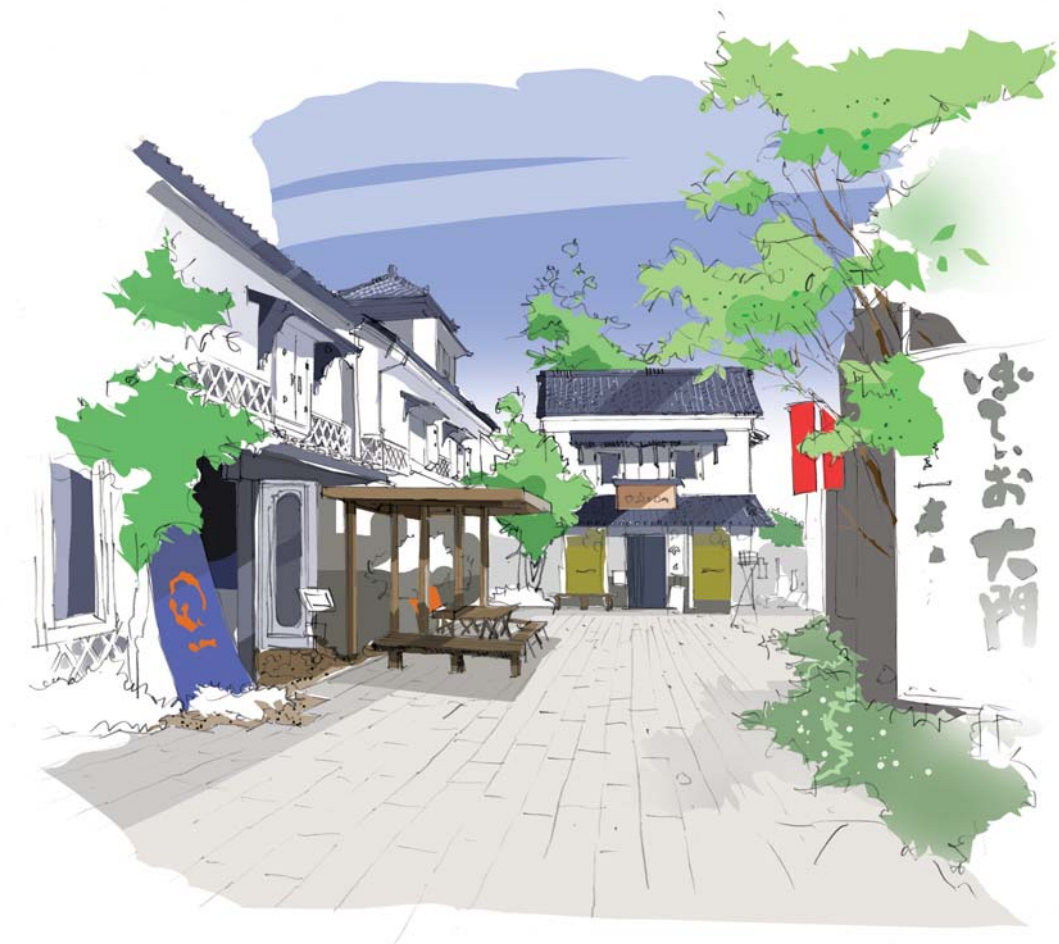


NUPRI
Nagano Urban Policy Research Institute
NPO法人 長野都市経営研究所
〒380-0834 長野市大字鶴賀問御所町1289-1丸本ビル2F
TEL.026-235-7911 FAX.026-235-6166
www.nupri.or.jp
e-mail: nupri@nupri.or.jp

わいがや
サロン

通信

Vol. 6
2007.5



第6回

環境と街づくり／ばていお大門・TOiGOの設計に参画して

平成19年4月21日(月) 17:00~19:00

講師／**竜野泰一さん** 株式会社エーシーエ設計 取締役副社長 [一級建築士]

■座長 **岩野 彰** 場所／NUPRI事務所 TEL.026-235-7911



TOiGO

寒暖の差が激しい春の夕、4月の定例わいがやサロンは、「環境の中の建築」を意識して、幅広い分野の空間造形を行う株式会社エーシーエ設計の取締役副社長 竜野泰一さんにおいでいただきました。講演タイトルは「環境と街づくり／ばていお大門・TOiGOの設計に参画して」です。街づくりの貴重なヒントを頂戴します。

竜野さんが属するエーシーエ設計では、建築は街並みや風土に大きな影響力があり、時として地域社会の環境をも変えてしまうこともある、それゆえに建築を通じて文化向上の一端を担う気持ちをもって建築に関わってきたとのこと。次々とプロポーザル(設計競技)で最優秀案に採用され続けている業績は、その所以と思われます。まずは長野市のまちの再生に関わった2例から—

古きよき蔵のまちの再生「ばていお大門蔵楽庭」

2003年に長野市がTMO事業のひとつとして、十数の蔵が残る大門町の一面の再生事業(ばていお大門整備事業景観形成検討)を始動、エーシーエ案は1.賑わいの創出 2.門前町らしい街並みの整備 3.新しい大門の創造 というコンセプトを提案し採用された。

再生のポイントは①木造三階建て「養気館」をはじめとする土蔵の再生 ②善光寺表参道との連続性 ③記憶を残す雑木林を思わせる自然 ④回遊性を高める路地空間 ⑤昔の面影を残すこと であった。それらを踏まえつつ、「おもてなしゲート」「蔵しっく通り」等、役割をもたせたゾーニング、近隣への配慮やバリアフリーの徹底等、現代の感覚を盛り込んだ集合商業施設として、2005年秋にグランドオープンした。

メディアと商業・公益施設の融合「TOiGO」

長野市中心地区(新田町・問御所)再開発の基本構想が始動したのは1970年代。その後、バブル、経済落ち込み、長野そごう倒産(2000年)という時代推移を経て、2002年にデパート跡地への信越放送移転が決定したことからSBC棟・銀座・広場で構成された計画となった。～当初の再開発事業推進案は上千歳町を含む広い範囲が対象であった。構想は何度も修正され、最終的には1/7の2万2千㎡に～



「ばていお大門」は「第5回土地活用モデル大賞 都市みらい推進機構理事長賞」「信州ブランドアワード2006 特別賞」「第19回長野市景観賞 景観賞」を受賞



最終案は、そごう跡地の「商業施設+SBC新本社のSBC棟」中央通り(善光寺表参道)に面する「商業施設+公益施設(長野市生涯学習センター)のWEST棟」とSBC棟とWEST棟の角地を「広場」とするというもの。異なる機能をアーケード付モールで融合させた施設は長野市の新しい顔TOiGOとして、2006年9月誕生した。

長野市の都市計画について

(「都市経営研究所の皆さんを前にお話しするのは冷や汗ものなのですが・・・」と前置きして)日本の都市計画事始は関東大震災。それを機に長野市も大門町の両家並みを後退させ、通りを拡幅させたことの意義は大きい。戦後復興を経て1971年より始まる長野市都市計画事業は、車社会における歩行者の快適性を確保する交通セル方式、中央通りのトランジットモール化(善光寺表参道)等々が提案され、現在に至る。

中央通りのトランジットモール化や北八幡川・南八幡川の親水公園としての再生は、潤いのある街づくりにプラスになる。人が生きていくためには潤いが欠かせない。車が通れなくなり不便という意見もあるが、都市計画はワークショップを何度も開いて市民の理解を得ることが大切だ。



「都市の記憶」「環境と街づくり」

日本は経済効率主義で走ってきたが、時を重ねたものを貴ぶ気持ちを失ってはいけぬ。建築物には“都市の奥行き”“記憶装置”としての役割がある。様々な規制や経済効率を求めた結果、残したくても残せないものがあつたが、規制緩和によって再生の手段は広がっている。

人口減少時代の到来や地球資源の枯渇により、もう過去の社会基盤を維持することは不可能だ。社会の流れは“資産価値=モノ”から“利用価値=機能”に転換している。建築においては“つくる”から“使う”に変わってきている。持続可能な社会の実現のためには、今あるものを長く使うということを心がけたい。

以前なら更地にして一から建て直していた物件を、改築によって新築に近い要望に応えられる技術をもっているの、ぜひご相談を!

今回は鷲沢長野市長が特別聴講。竜野さんの話に補足して、と青年期から関わってきた長野市の都市計画経緯余話も聞けました。

大分、日が長くなってきたので、次回より夏時間ということで午後6時開講とします。

<http://www.aca-sekkei.co.jp>

